

# グリーンニュース 第31号

発行年月日 平成 19年 3月 16日  
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会  
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

## 行動する環境アドバイザー

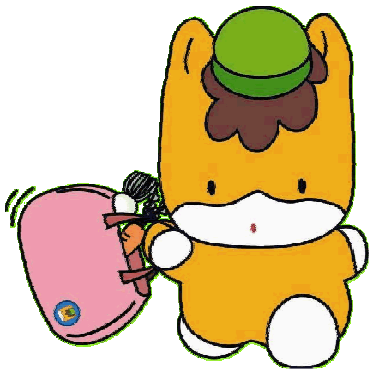
・・・研修・情報交換の場を広く・・・



白鳥観察会 / 自然環境部会  
2007.2.17 ガバ沼(邑楽町)

白鳥観察会 / 自然環境部会 2007.2.17 ガバ沼(邑楽町)

- H18年度マイ・バッグ・キャンペーン結果報告 (2ページ)
- レジ袋の有料化を考える～努力した人が報われる社会に～ (3ページ)
- 生ごみについて考える・地域の自然(洗い場) (4ページ)
- ホームページ「ぐんま環境アドバイザーネット」について
- 菜の花プロジェクト説明会の報告 (5ページ)
- 伊勢崎市地球温暖化対策地域協議会の設立・藤岡ブロック活動状況(6ページ)
- 環境に関わる私の思い・ゴミのポイ捨てを無くす (7ページ)
- 広報ア・ラ・カルト (8ページ)



# H18年度 マイ・バッグ・キャンペーン

## 119万枚のレジ袋を削減しました！

今年度のマイ・バッグ・キャンペーンも無事終了し、実施結果をとりまとめましたので、皆様にご報告します。  
今年度は県内533店舗が参加しました。

### 【平成18年度の成果】

応募数	レジ袋節約効果	ごみ減量効果	石油節約効果	CO <sub>2</sub> 削減効果 (推計)
119,853 件	1,198,530 枚	11,985 kg	24,690 ㍓ (ドラ缶 約 123.4 本分)	61,972 kg
前年比 +11,011	+110,110	+1,101	+2,269 (+11.3本分)	+5,695
平成12～18年度の累計				
326,334 件	4,493,470 枚	44,935 kg	92,565 ㍓ (ドラ缶 約 462.8 本分)	232,338 kg



## 啓発活動への御協力に 感謝します

マイ・バッグ・キャンペーン啓発活動、今年度は県内69箇所での実施となりました。本当にありがとうございました。他の団体と連携して、小学生と一緒に、イベント等で呼びかけなど、実施方法はさまざまですが、400人近い人達にご協力をいただき、大変感謝しております。

はじめて7年が経つマイ・バッグ・キャンペーンですが、まだまだ知らない方もいらっしゃるようです。直接マイ・バッグ・キャンペーンへの参加を呼びかけて頂くことはPRとして最も有効であり、ありがたいことです。今後とも、御協力をお願い致します。

# レジ袋の有料化を考える

～ 努力した人が報われる社会に～



群馬県では、毎年9月から11月までの3ヶ月間、マイバッグキャンペーン運動を実施している。私もこの運動の実行委員の一人として、啓発のため、環境アドバイザーの皆さんや関係者とともに、スーパー等の店頭で時々立つことがある。そして来店された皆様に、啓発資料を渡しながらか、レジ袋の辞退を呼びかけている。

その時、多くの方は「ご苦労様・・・」「私たちは実行しています」と暖かく言ってくださる。しかし時には、まったく無視されたり、逆に苦情を言われたりすることもある。その時私は、“レジ袋が有料になれば、こんな思いをしなくてもいいのに・・・”と思うことがある。レジ袋の有料化、それを私は決して消費者いじめとは思わない。国民一人ひとりが、ごみを減らし、資源のムダを排除し、しいては地球温暖化防止対策の第一歩を踏み出す努力をして欲しい、ということである。

ごみ処理場の新たな確保は難しい、地球の温暖化現象が進み地球が危ない等、環境問題の課題について、国民の多くは知っている。しかし、具体的な行動は・・・と問われると、沈黙される方が多くなる。心の隅に“自分の生きているうちは大丈夫だろう”“自分一人がしなくても・・・”というような、問題点先延ばしの意識が存在しているのではないだろうか。

確かにオゾン層対策、氷河対策といっても、大きすぎて私たちには何も出来ない。しかし、レジ袋辞退、トレイ・ペットボトルの削減等、包装容器の削減からスタートすることは、費用もかけず努力で環境対策の第一歩がスタート出来るのではないか。私は、レジ袋の値段は、3円でも5円でもよいと思っている。身近な出来ることから実行することが大切だと確信している。

一方、これを徹底させるためには、ヨーロッパ各国や韓国のようにお店も一体となった、レジ袋有料の法整備も必要だと思う。行政部門、議会関係者のご尽力も期待したい。

(代表 鈴木 克彬)

# 生ゴミについて考える

いつも思うのだが生ゴミを何故燃やして処理するのだろうか。

約80パーセントが水分といわれる生ゴミを燃やすという発想を誰がしたのかは定かではないが、「プラスチック性のゴミの多い今日焼却炉が高温になりすぎて炉が傷むので生ゴミで温度調節する」という現場の声を聞いて唖然とした。生ゴミの多くは本来人間の体に入るべき命の源の一部であり、残渣とはいえその命を「いただかず」して燃やすことは命への冒瀆ではないか。「生ゴミの堆肥化」。これは長い人間の歴史の中で延々と続けられてきた営みである。したがって生ゴミ(糞尿も含めて)で人間の命は支えられてきたと言っても過言ではない。今、人間の生き方が問われている。命というものをあまりにも軽く考えていないか？私は生ゴミという宝物を有機堆肥としてその持つ命を再生することこそが生ゴミに対する礼儀ではないかと思っている。

(ゴミ部会 新井 靖衛)

## 地域の自然 洗い場



昭和53年に始まる予定の都市計画事業が地主の反対により遅れて、始まったのは昭和56年でした。区域も集落のところだけだったのが唐沢川まで延びて98ヘクタールになりました。期間も15年の予定が20年かかりました。

以前の洗い場は蚕具を洗ったり、障子やござなどの生活用品を洗ったり、砂を採取したり、村人の生活と密着しておりました。降り口は直線ではなく切り返して楽に物を持って降りることができました。川幅も狭く、水面の上に4m～5mくらいの丸太が2本渡してあり、農具を持って兩岸に渡れるようになっていました。

現在は上越新幹線の湧水が流れこんで20倍くらいの水量があります。最盛期になった頃、唐沢川を改修する話を聞いたので、地域でただ一つ自然の残っている洗い場の保存をするため、区画整理事務所の責任者に昭和20年～30年代の話をして、下に降りて洗物ができるようにお願いしたところよく理解して頂き、飛び石を置き、洗い場がきれいに作られました。地区の人たちは、河川改修の計画をこまかく聞いていないので護岸がブロック積みになるくらいしか理解していなかったのです。

河川と都市計画とは予算も規模も違うが、端の道路と河川の中は無関係にフェンスで仕切られている。離れてはいるが道路脇に待避所が作られて車も止められるようになりました。洗い場はフェンスが無く降りてゆけるが駐車場は無くバランスの悪いものになってしまい非常に残念でしかたがありません。

当時、時間もひまもなくグループを作るなんて考えてもみなかった。今は昔のようにクワガタやカブト虫などが取れるようなところになりたいと思い、クヌギを植えたが3回以上失敗、草にまかれて駄目になった。県の昆虫の森と相談してクヌギの種を採取してまきました。今、発芽したので2～3年自宅におき、大きくして移植する考えです。現在は県も道端の草刈りをしてくれます。低水護岸は友人達とゴミ拾い、草刈りを毎年行って整備しております。

(自然環境部会 畔見 和佳)

# ホームページ 「ぐんま環境アドバイザーネット」について

環境アドバイザー連絡協議会のホームページ(ぐんま環境アドバイザーネット)開設されてからほぼ1年が経過しました。ホームページは行事予定や行事報告を中心に会員の活動をより効果的に推進するためにタイムリーな情報提供を行なうことを目的に開設しました。

内容の検討は広報部会のメンバーが行い、鈴木代表や群馬県環境政策課の方にも入ってもらい検討した結果現在の形になりました。またデザインの検討は広報部会の坂谷さんが行ないました。

ホームページは楽天の無料サーバー上に「組織概要」、「行事予定」、「行事報告」、「各部会の内容」、「地域からの報告」、「グリーンニュース」、「資料集」、「リンク集」から構成されています。

現在まではほぼ毎週更新され、タイムリーな情報提供が出来当初の目的は達成できました。また各地域や部会からのレポートも多数掲載されています。

地域や個人で活動されている方も多くと思いますので、活動内容を報告して頂き、更に充実したホームページにしていきたいと考えていますのでご協力をお願いします。またホームページの運営に協力できる方はインターネットが使用できる環境があれば自宅で都合の良い時間に活動できますのでお申し出下さい。

ホームページアドレス <http://gadviser.hp.infoseek.co.jp/>

問合せアドレス [gadviser@infoseek.jp](mailto:gadviser@infoseek.jp)

(広報部会 西村 豊)

## 菜の花プロジェクト説明会の報告

温暖化防止対策として、さらには循環型社会をめざして、菜の花プロジェクトを県内各地域に広めていこうと、2月3日、県昭和庁舎で説明会を持ちました。

当日は環境アドバイザー会員以外にも生協や環境団体など25名の参加がありました。

初めに草場さん(高崎)より菜の花プロジェクトの概要について説明、自らも菜の花を栽培するなかでの体験談を話していただきました。続いて沼田の真下さんより「ごったく広場」での廃食油回収について、取り組みのきっかけ、回収の方法、BDFの利用について、映像を交えながらの話があり、その後、沼田県民局内に廃食油活用の部会を設置するという新聞報道にもありましたように、大きな流れになってきました。

後半は参加者の意見交換に移り、このなかで安中や太田からは、廃食油の回収を予定しているという話がありました。回収が始まれば、精製施設のある玉村との線上に、複数の回収拠点をつくり時間をずらし集めて回るという方法もとれるので、回収の輪も広がるため、至急、回収拠点の設定を進めたいと思います。また前橋市では、地域づくり推進事業の一環として、菜の花プロジェクトの活用があり、南橘、下川淵の担当者も今回参加いただきましたので、双方連携しながら、市民参加型の取り組みにしていきたいと考えています。

(温暖化・エネルギー部会 小川 仁司)

## 伊勢崎市地球温暖化対策地域協議会の設立



伊勢崎市では2006年3月、伊勢崎市独自の地球温暖化対策推進計画及び実行計画を発表した。この案を基に伊勢崎市地球温暖化対策地域協議会を設立することが決まり、第1回会合が2006年11月、開催された。メンバーをみると消費者団体、運輸団体、食品スーパー団体、建設団体、企業団体、環境団体、行政等15名で構成された。この中に我々の仲間、下城茂夫氏と吉江富雄が参加しました。この団体を環境省に登録致しました。協議会(2ヶ月に1回開催)で話し合われたことをどのように実行(活動)していくか楽しみです。もちろんPDCAは忘れません。

(伊勢崎市の環境を守る会 吉江 富雄)

## 藤岡ブロック活動状況

今年の冬は記録尽くめの暖冬です。関東平野では雪は降らない、東京では冬日が一日もない、春の花の開花が早い、春一番が例年より二十日も早く吹いた等々。これらが一過性とは思われず、地球温暖化は確実に進んでいることは確かです。私達はこの暖冬を実感することにより、日頃行っている環境保護活動をさらに推進していかなければならないと考えます。

藤岡ブロックは平成18年度の地域環境学習推進事業を「自然とふれあい地域の環境を守ろう」をテーマに2つの事業を実施し、子ども達を主体に自然と触れ合いながら、自分達の住む地域の自然環境を実体験して、共に学ぶことを目的としました。

8月の藤岡市・鮎川上流での水中生物観察会。ここでは普段目にする事の出来ない様々な生き物が子ども達によって捕らえられ、講師の先生による解説では一度環境が汚染されたらこれらの生き物はたちまち住むことが出来なくなるという話に、いつまでもこの自然を残していかなばという思いにかられました。

11月の藤岡市・庚申山でのネイチャーゲーム。じっと耳を澄ますと聞こえてくる鳥の声や風の音。紅葉した林。これらも環境が悪化したら体験することが出来なくなる貴重な財産であることを痛感しました。このほかに6月には藤岡市鬼石・金丸で蛍の見学会を行いました。蛍は地元ボランティアの献身的な努力で保護育成されているものですが、その一部をお借りして、自然環境保護の学習をしました。

これらの活動を通して感じられたことは地球環境の保護・維持していくことの難しさです。そしてこの活動に参加した子ども達がすこしでも環境保護に関心を寄せ、省エネや省資源に繋がっていければと思います。

(環境アドバイザー藤岡ブロック 辰身 武昭)

## 環境に関わる私の思い

最近、環境のことで市外に出る機会が多くなり、様々な方から鶴生田川、城沼は如何ですかとの問いかけが多くある様になって吃驚。私は自分なりに何で市外、県外の人から言われるのかを考えた。

観光都市・館林の一年は鶴生田川の鯉幟から始まり、桜花、つつじ公園、菖蒲の花、ハスの花、彼岸花とつづき“水とみどりと花の町”と謳われていた。私も「ふるさとガイドの会」の観光案内で館林に引き寄せられて来る観光客、全国からの何十万のお客様から好い所ですねと以前は褒めていただいた。

しかし昨今は、川や沼にぶゆぶゆ浮いている物は何ですかとの問いもあり、環境委員としての私も説明に一苦労。観光館林の裏場面をも何かと見られている思いがする。

鶴生田川を遡り122号国道あたりになると水の汚れが増している様子、それから更に遡る水源の多々良沼も同じこと。昭和22年頃、戦後の食料難からからのさつまの澱粉工場の排水に始まり、だんだん死の沼と化した多々良沼。そして孫兵衛川の汚染実態、水源・多々良沼を考え直さなければと私は考えます。

60年前頃は多々良沼もあちらこちらから清水が湧き、浅瀬があり、魚の自由な住穴があり水生動植物の安住の沼でした。沼一面に船が進めない程ヒシが咲き乱れ、水中1~2メートル下の水底の魚が見える程、清い水でした。水生動植物は自由に育ち、その葉を掻き分け沼の水飲んだ事などありました。水辺では蛙が鳴き、水鳥の囁きが聞こえ、ムジナモの花が咲き、ホタルが飛び、水生動植物の棲家として楽園でした。私達も出来る事なら60年前の多々良沼に戻してもらいたい。だが、化石燃料の時代になっては私達一人ひとりが足元から出来ることから考え直す所に来ていると思います。“環境を壊すのは一時、元に戻すのは何百年”との謂われに私をはじめ皆さんも胸に手を当てて考え直そうではありませんか。

(館林・ケナフとカキツバタの会 荒井 孫四郎)

## ゴミのポイ捨てを無くす

運動不足の解消にと思い早朝に毎日、ヘラ釣りで有名な丹生湖を早足で一周(約4km)するのを日課にしていました。当初は道端や側溝に飲み物の空き缶がところどころに落ちていました。目で見て心の中で「しょうがないな」と思っていました。日を送るにつれて周囲の木々が芽吹いてきてだんだんに緑のトンネルになり、森林浴をしながら気持ちよく歩くのにどうも空き缶等のゴミが目障りになるので、レジ袋を持って歩きながら回収をはじめました。隔日で、空き缶やペットボトルを14、5本と何袋も拾い入れる様な期間が2~3ヶ月続きました。そのうちに4~5日に一袋となり、ゴミがあると通る人が平気でゴミを捨てるという悪循環にならないよう、レジ袋を持たないときは通行する人の目に付かない方に集め置き、翌日に回収するようにして来ましたら、秋



口になったら週に一回でも袋に満杯にならなくなりました。周遊道も整備されて最近利用者が増えて毎日3、40人位とのこと、最近寒いので日中に隔日で歩いていますが周遊道では殆どゴミはありません。小さなことでも継続して実行すれば必ず成果がでるものです。未だ人々の「公德心」はすたれていません。皆さんで環境保全と地球温暖化防止に頑張りましょう。

(環境アドバイザー 富岡地域ブロック 吉田 孝)

※ 記録的な今年の暖冬では、例年3月中～下旬に北の国に帰る白鳥が既に旅立っているのではと危惧しながら、自然環境部会主催の白鳥観察会に参加しました。幸い100羽近くのコハクチョウの姿がガバ沼にあり(表紙写真)、多々良沼周辺の環境について館林の荒井さん他に解説(本号に荒井さん寄稿)をいただき有意義な冬の日となりました。

※ **環境教育関東ミーティング参加報告** 国立赤城青少年交流の家で2/10～12「環境教育関東ミーティング」が1都6県の近県から百数十名が集まり、専門分科会で討議が重ねられました。今年で3回目になる催しも年々広がりを見せ充実してきています。環境教育に関わる人だけでなく、環境に関心を持つ学生や市民の参加も多く、地域や世代を超えてのネットワークに期待が膨らみました。地元開催なのに環境アドバイザーの参加が少なかったのは残念です。

※ **環境関連情報記事の転載** 県のホームページで片亀 光さん(玉村町)のインタビュー記事が掲載されていました。そこではご自身の環境問題への思いや対応が種々語られていますが、その中の2つのフレーズは環境問題を啓蒙する者に有用と考え、以下に紹介します。

『無関心とあきらめが一番の大敵』、『1人の100歩より100人の一歩』

※ 「第2回 アースデイ in 桐生」開催のお知らせ 2/24のアドバイザー研修会では群大・工学部長 宝田恭之教授より地球環境エネルギーに関わる講演を賜りましたが、来る4月21日(土)に標記の環境関連イベントが桐生で行われます。

群大工学部はじめ、環境アドバイザーを中核に活動している地域のグループも参加します。詳細はホームページ等を見てください。

## 環境アドバイザーの登録・更新をお忘れなく!!

皆さんの環境アドバイザー登録期間は3月末日までです。既に、各位には県環境政策課から登録用紙が郵送またはEメールでお手元に届けられていることと思います。

新年度からも引き続き環境アドバイザーとしてご活躍いただきたいので更新手続きを速やかにお願いたします。

今後の行事予定並びに行事報告はインターネット・ホームページ

「ぐんま環境アドバイザーネット」

<http://gadviser.hp.infoseek.co.jp> に適時、掲載されています。

行事予定・報告等の掲載を要望される方は下記のE-MAILアドレスに連絡ください。

[gadviser@infoseek.jp](mailto:gadviser@infoseek.jp) または [nmrt@nifty.com](mailto:nmrt@nifty.com)

「グリーンニュース」のバックナンバーもホームページでご覧になれます。